

今年の日高の夏は北海道らしくない「梅雨」に見舞われ、天候の変化が激しい日々でしたが、軽種馬育成調教場では利用者の皆様からの要請を受け、7~8月サマータイムを実施しました。9月には屋内坂路馬場走路のウッドチップを補充し、均一な路盤維持に努めました。また、「冬期間にも発馬機を使用したい!」という利用者の皆様からの要望を受け、南地区の馬道の一部分を拡幅し、設置場所を確保しました。この冬には1,600m直線砂馬場スタート地点の発馬機を移設して使えるようにしますのでご活用ください。

当センターの研修生は入講して半年が過ぎ、通常の日課に加え、7月に町民乗馬大会・浦河競馬祭への参加、8月に民間牧場での実習、9月に札幌競馬開催見学・JRA育成馬の初期馴致実習等、行事が目白押しで、充実した日々を送っております。また、生産地の騎乗者を対象として7~8月に短期育成調教技術講習会(4週間)を実施し、騎乗技術等のレベルアップを図りました。その他、当研修事業を知ってもらおうと、8月に体験入学会を2回実施しました。次期研修生の応募締切は10月9日です。多数の応募をお待ちしております。(Y.H.)

「たづな」の欄では、本年の定期異動により3月1日付けでJRA馬事部長に就任された田辺博章氏に、強い馬づくりと今後の軽種馬流通について巻頭言をいただきました。現況は百年に一度ともいわれる世界的規模の景気停滞ですが、軽種馬流通が国際的に一段と盛んになる日が早く来ることを期待しています。

「調査・研究」では、軽種馬における下痢発症の防止に対して乳酸菌の投与が効果的であることから、その概要を麻布大学の森田准教授に紹介していただきました。若馬の日常の健康管理に役立つものと思います。「科学の箱馬車」では屈腱炎の超音波診断について、JRA総研臨床医学研究室の笠嶋主任研究役に屈腱組織とエコー検査について分かり易く解説していただきましたので、役立てていただければと思います。

「馬にみられる病気」シリーズでは、若馬にみられる腱・靭帯附着部炎、骨膜炎や骨瘤形成について解説いたしました。成長期の若馬にみられるスポーツ障害の早期発見や発症予防に役立てていただければ幸いです。(T.Y.)